



日本植物病理学会ニュース 第112号

(2025年11月)

【学会活動状況】

1. 部会開催報告

令和7年度日本植物病理学会関西部会報告

令和7年度日本植物病理学会関西部会は、9月18日(木)～9月19日(金)の日程で、京都大学農学部(吉田キャンパス北部構内)において対面形式で開催されました。参加者は、175名(一般会員86名、学生会員65名、非会員24名)で、発表数は60題でした。9月18日(木)午前11時から役員会を開催し、午後1時から総会が行われ、全ての議案が承認されました。次期部会長には大阪公立大学の東條元昭氏が選出されました。また、次年度の部会は、西日本農業研究センターの川口章氏を開催地委員長として、広島県立大学で開催されることが決定されました。総会終了後には、小林括平部会長により、『「抵抗性と感受性のはざま」・・・ウイルス病研究者から見た植物病害』と題した講演が行われました。一般講演は、3会場で行われ、いずれの会場においても活発な質疑応答が行われました。9月18日の一般講演終了後の午後6時より、京都大学吉田キャンパスの「北部生協会館」において、情報交換会を

行いました。情報交換会には116名の方が参加し、小林部会長のご挨拶と開催地委員長(高野)からの挨拶の後、次期部会長の大阪公立大学の東條元昭氏より乾杯のご発声いただきました。飲食をしながら親睦を深める有意義な機会になりました。情報交換会の中ほどに、次期開催地委員長である川口氏からご挨拶をいただきました。最後に、高知大学の曳地康史氏に閉会のご挨拶をいただきました。2日目の一般公演は、9月19日の午前9時半から開始され、ここでも活発な質疑応答が行われました。

また、9月17日(水)の午後1時半より、京都大学農学部において、日本植物病理学会関西部会・若手の会が対面で開催されました。参加者は、56名でした。名古屋大学の日野雄太氏、石川県立大学の坂根光星氏、京都大学の平田梨佳子氏による講演と活発な質疑応答が行われました。研究内容だけでなく、研究への取り組み方やキャリアに対する考え方など、参加した学生・若手会員は、今後の研究活動にとって有益な情報を得ることができたようです。その後、全参加者による自己紹介とパネルディスカッション、それに引き続いて懇親会が行われ、学生・若手会員が親睦を深める絶好の機会になりました。

今回の部会開催にあたり、京都コンベンションビューローからご支援を賜りました。ここに記して感謝申し上げます。また、開催地幹事としてご対応いただいた京都大学の峯彰氏をはじめ、京都大学、京都府立大学の関係各位のご尽力とご協力によって、非常に活気のある部会を開催できたことを、ここに記して感謝申し上げます。

(高野義孝)



写真1 関西部会・総会の様子

2. 研究会・談話会開催報告

(1) 第59回植物感染生理談話会

令和7年度の植物感染生理談話会を鳥取大学農学部1号館(鳥取キャンパス)において9月3日～9月5日の日程で開催しました。今年で59回目を迎えた植物感染生理談話会は、鳥取で過去に3度開催されており、今回は

2002 年以來の開催となりました。残暑厳しい中での開催でしたが、学生 51 名、一般 40 名の計 91 名の参加者が集まり、対面形式ならではの熱い議論が交わされました（写真 1 上段）。ご参加いただいた皆様にお礼申し上げます。

今回のテーマは「多様なアプローチで拓く植物感染生理学」とさせていただき、幅広い所属と分野の先生方 14 名に講師としてご登壇いただきました。近年、植物感染生理学分野には多様なバックグラウンドを持った研究者が数多く参入し、技術の進歩も相まって、研究は多様化するとともに、これまで以上のスピードで飛躍的な発展を遂げています。それを踏まえて本談話会では、植物感染生理学における先端研究だけでなく、植物病害防除に直接繋がる研究や生態学をベースとした研究など、テーマに沿った多様な研究をご紹介します。特別講演では鳥取大学農学部石原亨先生に「イネにおけるファイトアレキシンの多様性と進化」についてご講演いただきました。イネのコアコレクションを用いて代謝産物の解析をベースにファイトアレキシンの生合成遺伝子の進化について解明する研究は、非常にスケールが大きく、研究アプローチとしても参加者の方々にインパクトを与えるものであったと思います。いずれのご講演もオリジナリティーがあり、洞察と示唆に富む内容で大変勉強になるものでした。また、多様化する植物感染生理学の研究において、新たな方向性について考える良い機会を提供できたと感じております。

二日目に開催された学生・若手研究者によるポスター発表は 45 題ありました。各発表者による「ショートプレゼンテーション」の後、同日の夕刻にポスタービューイングとディスカッションが行われました。60 秒のショートプレゼンテーションによる事前の説明もあり、ポスター会場での議論は大いに盛り上がりしました（写真 1 下段）。また、講師と座長の方々による投票で学生優秀発表賞が選考され、名古屋大学大学院生命農学研究科の芦田晃さん（分類学的に離れた多犯性植物病原菌 *Botrytis cinerea* と *Colletotrichum tropicale* におけるファイトアレキシン応答性解毒機構の収斂進化；写真 2 上段右）と岡山大学農学部の水谷留嘉さん（アブラナ科植物黒斑細菌病菌に存在する Genomic islands の病原力における役割の解明；写真 2 下段右）が学生優秀発表賞を受賞しました。本当におめでとうございます。なお、次年度の 60 回目の節目となる本談話会は、東京大学の山次康幸先生を代表として、9 月 2 日～4 日の日程で東京大学農学部 1 号館にて開催される予定です。東京大学が主催での本談話会の開催は初めてとなります。盛会を祈念しております。

最後に、多忙にも関わらず快くご登壇と談話会誌の原稿



写真 1 講演会場（上段）とポスター会場（下段）の様子



写真 2 学生優秀発表賞を受賞した芦田さん（上段右）と水谷さん（下段右）

執筆をご了解頂いた講師の先生方には、末筆ながら厚く御礼申し上げます。会議の進行に快くご協力いただいた座長の皆様方に感謝申し上げます。また、本談話会を開催するに当たって日本植物病理学会事務局の関係各位に深くお礼申し上げます。共催としてご支援いただいた国立大学法人鳥取大学ならびに後援いただきました公益財団法人とっとりコンベンションビューローにこの場を借りて感謝申し上げます。（上中弘典）

(2) EBC 研究会ワークショップ 2025 開催報告

今年度のワークショップは、9 月 16 日（火）に法政大学 小金井キャンパス（東京都小金井市）を会場として、二年ぶりにセミナー形式で開催しました。今回は、セミナー形式によるワークショップのため申込先着 30 名の参加と

させていただきました。申込は8月1日（金）10時から開始しましたが、3時間弱で定員に達し申込を締め切ることになりました。参加を希望されていても申込が叶わなかった方々には、この場をお借りしてお詫び申し上げます。申し訳ありませんでした。

当日、運営委員代表の川口 章氏（農業・食品産業技術総合研究機構 西日本農研センター）の挨拶から始まり、午前は「圃場での研究に役立つ基本的な6つの検定手法」と題して、池田健太郎先生（法政大学 生命科学部）が講師となり、圃場で研究を行う際に扱うデータの種類や解析に用いる検定方法は限られており、実験計画や研究デザインを踏まえて、どのようなデータの時にどの検定方法を使うのかについて、各々が持参したパソコンで解析ソフ

トウェア EZR を実際に動かして学びました。午後は、まず岩館康哉氏（岩手県農業研究センター）による「圃場試験の結果を解析する際に役立つ検定の話」として、解析に役に立つ基本的な内容を紹介、標準偏差（SD）と標準誤差（SE）、パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の使い分け、複数試験の統合評価（メタアナリシス）、生存時間解析（ Kaplan-Meier 法）など、一緒に作業して参加者に理解を深めてもらいました。次いで、池田先生に再登壇いただき「一般化線形混合モデルによる複数回の圃場試験データの解析」として、複数回の試験によって得られたデータを一般化線形混合モデルなど解析することで、その防除効果の大きさ（エフェクトサイズ）を定量的に知ることを、発病株割合を例にして、得られたデータから解

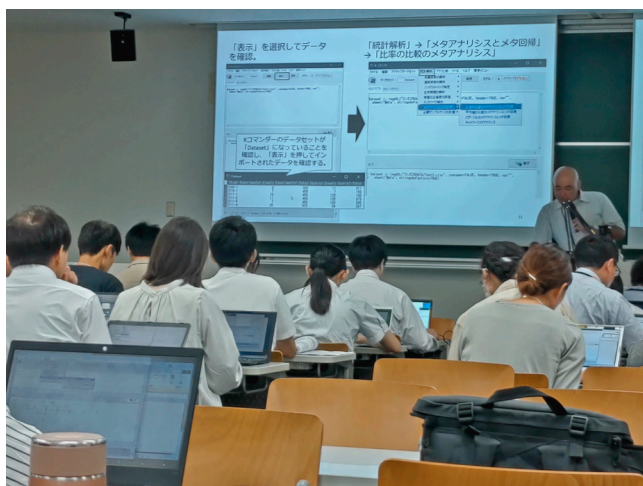


写真1 岩館氏による「圃場試験の結果を解析する際に役立つ検定の話」



写真3 総合討論「今日学んだこと、その先にあるもの」



写真2 受付を担ってくれた法政大学 総合診療研究室の学生さん



写真4 池田先生による「圃場での研究に役立つ基本的な6つの検定手法」

析結果の解釈までを学んでもらいました。さらに「EBC 研究会で学んだこと、その利活用について」と題して、一昨年に開催したセミナー形式のワークショップに参加いただいた星野啓佑氏（群馬県農業技術センター）にはハクサイ黄化病、下間悠士氏（北海道立総合研究機構 北見農業試験場）にはテンサイ褐斑病について、実際に圃場で得られたデータの解析についてお話いただきました。最後に「今日学んだこと、その先にあるもの」と題した総合討論では、川口氏とともに、午前と午後に講師を務めた池田氏と岩舘氏の三人に参加者からの質疑に対応いただき、活発な学びの場となりました。時間が足りない印象も多少ありましたが、ワークショップは盛会裏に幕を閉じることができました。

EBC 研究会では、来年以降もワークショップを開催する予定です。より良いワークショップを目指して運営委員会で検討を重ねて参ります。次回も楽しみにしていただき、ぜひご参加いただきたいです。どうぞよろしくお願いいたします。

（篠原弘亮）

【学会活動予定】

1. 2026 年度大会

日時：2026 年 3 月 26～28 日

場所：摂南大学枚方キャンパス（枚方市）

事務局：摂南大学

2. 部会

九州部会

日時：2025 年 11 月 20～21 日

場所：沖縄県立博物館（那覇市）

【学会ニュース編集委員コーナー】

本会ニュースは、身近な関連情報を気軽に交換することを趣旨として発行されております。会員の各種出版物のご紹介、書評、学会運営に対するご意見、会員の関連学会における受賞、プロジェクト研究の紹介などの情報をお寄せ下さい。下記宛先まで、よろしくお願い申し上げます。

投稿宛先：〒114-0015 東京都北区中里 2-28-10

日本植物防疫協会ビル内

学会ニュース編集委員会

FAX：03-5980-0282

または、下記学会ニュース編集委員へ：

守川俊幸，松下陽介，佐々木信光，埋橋志穂美

編集後記

学会ニュース第 112 号をお届けします。本号は、関西部会報告、植物感染生理談話会、EBC 研究会ワークショップおよび今後の学会活動の予定などの記事を掲載しました。

（守川俊幸）

日本植物病理学会賛助会員（ABC 順）

アグロカネショウ（株）	307-0001 結城市結城 9511-4	0296-21-0175
アリスタライフサイエンス（株）	103-0027 中央区日本橋 1-4-1 日本橋一丁目三井ビルディング 19 階	
バイエルクロップサイエンス（株）	100-8262 千代田区丸の内 1 丁目 6-5	03-6266-7481
BASF ジャパン（株）	103-0022 中央区日本橋室町 3 丁目 4 番 4 号 OVOL 日本橋ビル 3 階	03-5291-3821
クロップライフジャパン	103-0025 中央区日本橋茅場町 2-3-6 宗和ビル 4 階	03-5649-7191
エフエムシー・ケミカルズ株式会社	100-0004 千代田区大手町 1-1-1 大手町パークビル 8 階	03-5208-1010
ホクサン株式会社	061-1111 北広島市北の里 27-4	011-370-2103
北興化学工業（株）	103-8341 中央区日本橋本町 1-5-4 住友不動産日本橋ビル	03-3279-5831
井上石灰工業株式会社	781-0112 高知市仁井田 1641	088-847-0615
石原産業（株）	525-0025 草津市西渋川 2-3-1	077-562-3574
株式会社 JEVIC	230-0054 横浜市鶴見区大黒ふ頭 15 小此木ビル 5F	045-834-7577
カゴメ株式会社	329-2762 那須塩原市西富山 17 番地	0287-36-2935
科研製薬（株）	113-8650 文京区本駒込 2-28-8 文京グリーンコートセンターオフィス	03-5977-5032
クミアイ化学工業（株）	110-8782 台東区池之端 1-4-26	03-3822-5165
株式会社クレハ	生産・技術本部 いわき事業所 974-8686 いわき市錦町落合 16	0246-63-5111
株式会社 久留米原種育成会	830-0064 久留米市荒木町藤田 1422-1	0942-26-2943
協友アグリ株式会社	103-0016 中央区日本橋小網町 6-1 山万ビル 11F	03-5645-0700

丸和バイオケミカル（株）		
101-0041	千代田区神田須田町 2-19-23 DAIWA 秋葉原ビル	03-5296-2313
三井化学クロップ&ライフソリューション（株）		
103-0027	中央区日本橋 1-19-1 日本橋ビルディング	03-5290-2700
（株）日本医化器械製作所		
543-0014	大阪市天王寺区玉造元町 3 番 9 号	06-6765-0223
日本化薬（株）		
314-0255	神栖市砂山 6	0479-40-2771
日本農薬（株）		
104-0031	中央区京橋 1-19-8 京橋 OM ビル	03-3274-3415
一般社団法人日本植物防疫協会		
114-0015	北区中里 2-28-10	03-5980-2181
一般社団法人日本種苗協会		
113-0033	文京区本郷 2-26-11 種苗会館 7 階	03-3811-2654
日本曹達（株）		
100-8165	千代田区大手町 2-2-1	03-3245-6210
株式会社 ニッポンジーン		
930-0834	富山市問屋町 2-8-16	076-451-6548
日産化学（株）		
103-6119	中央区日本橋 2-5-1 日本橋高島屋三井ビルディング 18・19 階	03-4463-8330
株式会社 農研植物病院		
305-0856	つくば市観音台 2-1-18	080-9150-2206
OAT アグリオ（株）		
101-0052	千代田区神田小川町 1-3-1 NBF 小川町ビルディング 8 階	03-5283-0251
大内新興化学工業（株）		
103-0024	中央区日本橋小舟町 7-4	03-3662-6451
（株）理研グリーン		
110-8520	台東区東上野 4-8-1 TIXTOWER UENO 8F	03-6802-8587
サンケイ化学（株）		
891-0122	鹿児島市南栄 2-9	099-268-7588
（株）エス・ディー・エスバイオテック		
101-0022	千代田区神田練堀町 3 ASK ビル 5 階	03-6867-8311
シンジェンタジャパン（株）		
104-6021	中央区晴海 1-8-10 オフィスタワー X 21F	03-6221-3819
住化農業資材株式会社		
541-0043	大阪府中央区高麗橋 4-6-17	06-6204-1139

住友化学（株）	103-6020	中央区日本橋 2-7-1 東京日本橋タワー	03-5201-0281
（株） トーホク	321-3232	宇都宮市氷室町西原 1625	028-667-1321
株式会社東海テクノ	510-0023	四日市市午起 2 丁目 4 番 18 号	0593-32-5122
ヴィルモランみかど株式会社	298-0202	夷隅郡大多喜町下大多喜 2789-1	0470-82-2413
横浜バイオテクノロジー株式会社	240-8501	横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-7 横浜国立大学総合研究棟 S703-1（平塚研究室内）	045-339-4160
米澤化学（株）	601-8455	京都市南区唐橋芦辺町 14	075-681-9526
全国農業協同組合連合会	100-6832	千代田区大手町 1-3-1 JA ビル 33 階	03-6271-8289
全国農業協同組合	101-0042	千代田区神田東松下町 23-1 Yunuo ビル 3 階	03-3254-4171